

## 第2章 市の概況



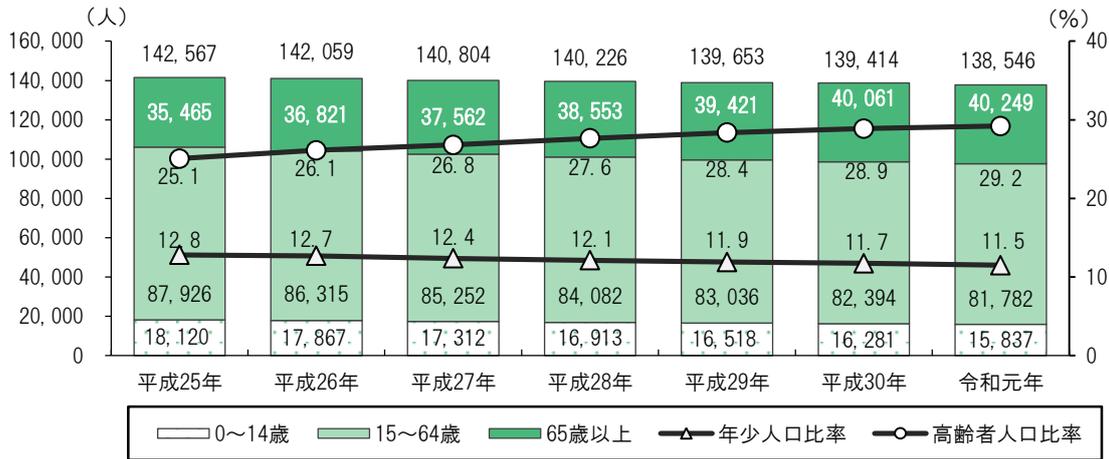


# 1 人口推移・年齢別人口構成

## (1) 人口推移・年齢別人口構成

土浦市の常住人口は、減少傾向が続いており、令和元年7月1日時点の人口は138,546人となっています。年少人口（0～14歳）比率は低下が続き、高齢者人口（65歳以上）比率は上昇が続いており、少子高齢化の着実な進行がうかがえます。

図表 常住人口の推移

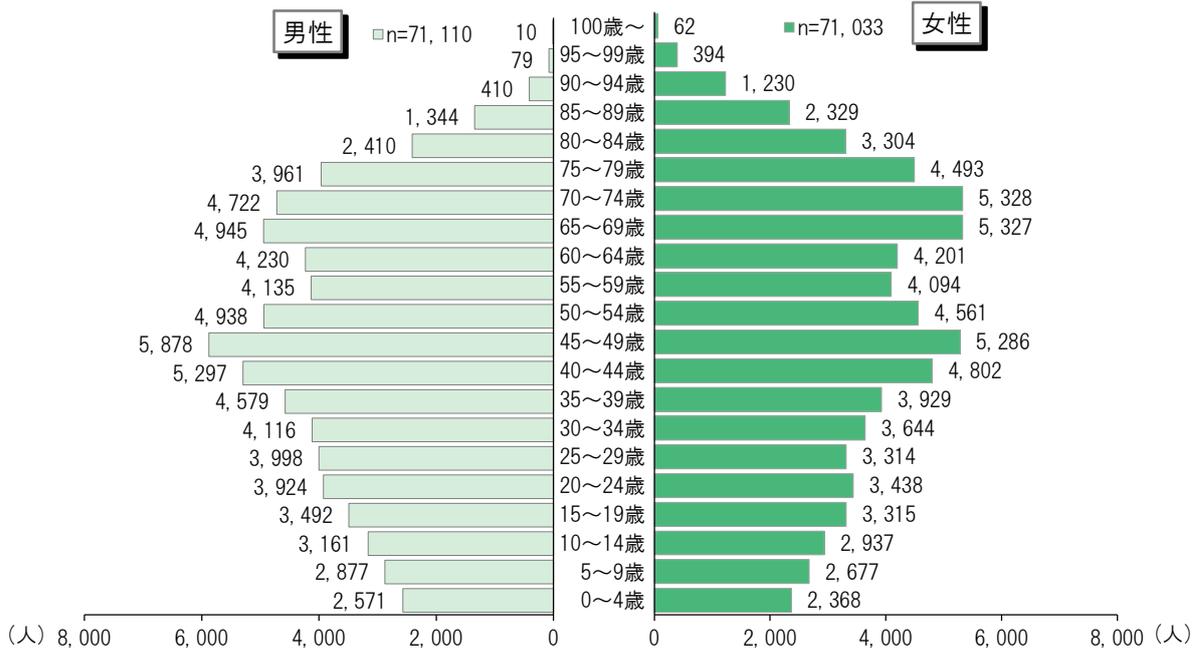


資料：茨城県常住人口調査結果（各年10月1日、令和元年は7月1日）

## (2) 年齢別人口構成（人口ピラミッド）

平成31年4月時点の年齢別人口構成は、団塊の世代を含む65～74歳、その子ども世代の45～49歳が男女ともに多くなっており、最も人数が少ない年齢階級となる0～4歳人口と比較するといずれも約2倍の人口となっています。

図表 人口ピラミッド



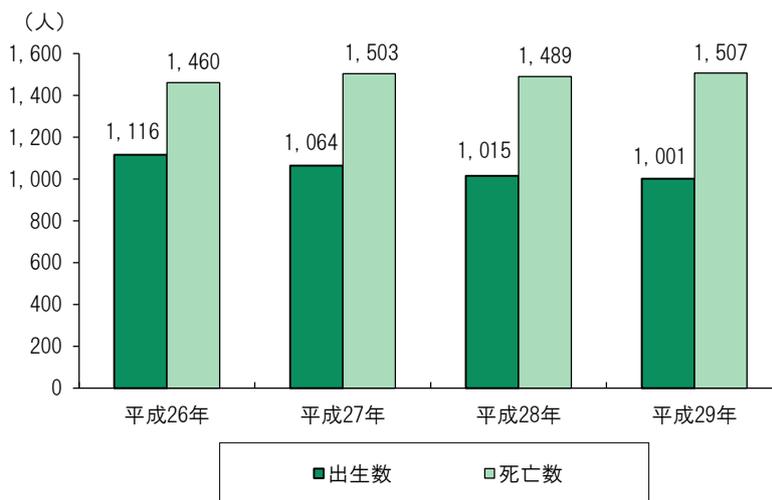
資料：住民基本台帳（平成31年4月1日現在）



(3) 出生と死亡の状況

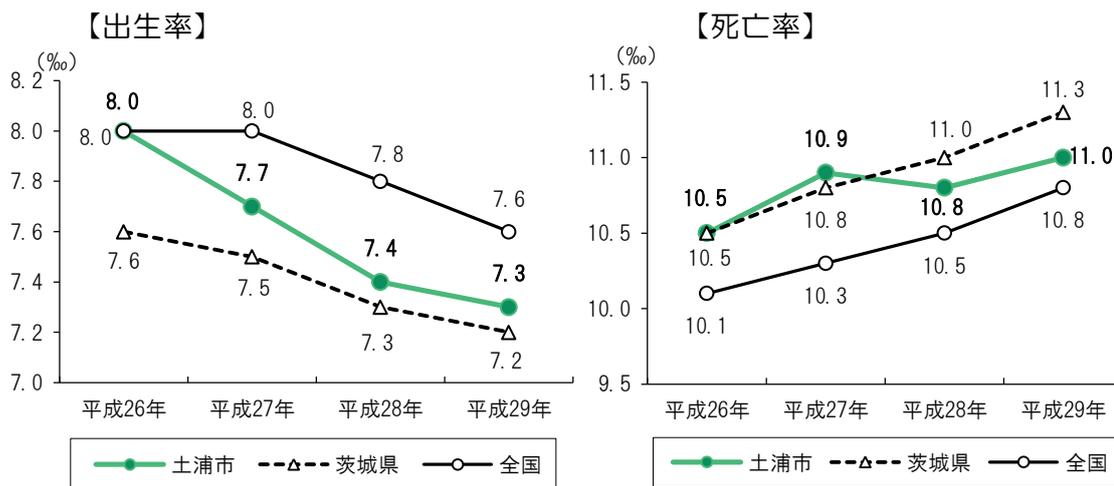
出生数と死亡数の推移は、死亡数が出生数を上回る傾向が続いており、出生数は減少傾向であるのに対し、死亡数は平成29年において、前年より増加しています。土浦市の出生率は全国を下回っていますが、県と比べると高水準で推移しています。死亡率は、平成27年では県を上回っていましたが、平成28年を境に下回って推移しています。

図表 出生数と死亡数の推移



資料：茨城県人口動態統計

図表 出生率と死亡率（人口千人対）の比較



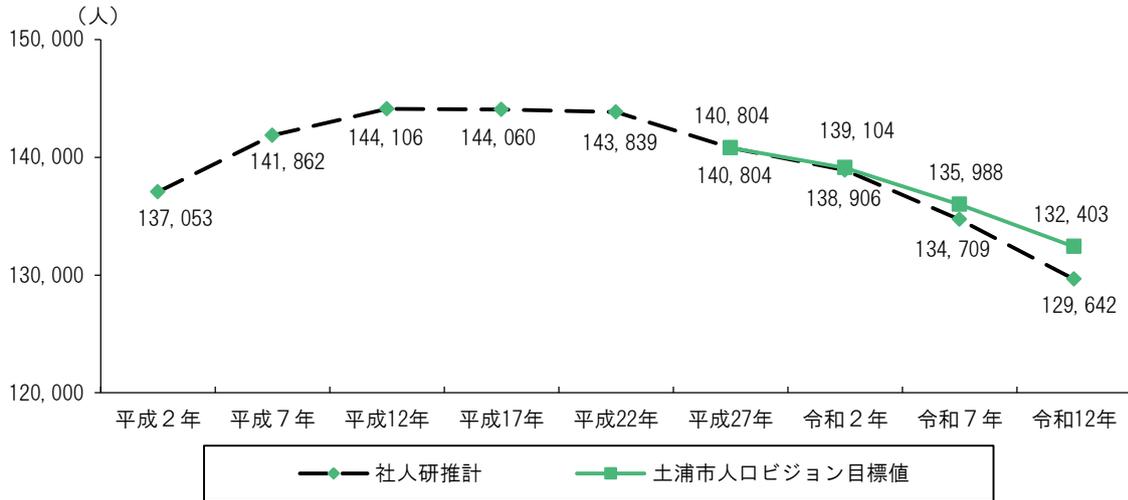
資料：茨城県人口動態統計

\*\*\*\*\*

(4) 将来人口推計

土浦市の人口は、平成12年をピークに減少に転じており、国立社会保障・人口問題研究所推計によると、今後も減少傾向が続くことが予測されています。平成27年時点で14万人台の人口は令和7年には13万4千人台にまで減少し、令和12年には13万人を割り込むことが予測されています。

図表 市の将来人口（予測）



資料：第8次土浦市総合計画  
 ※社人研：国立社会保障・人口問題研究所

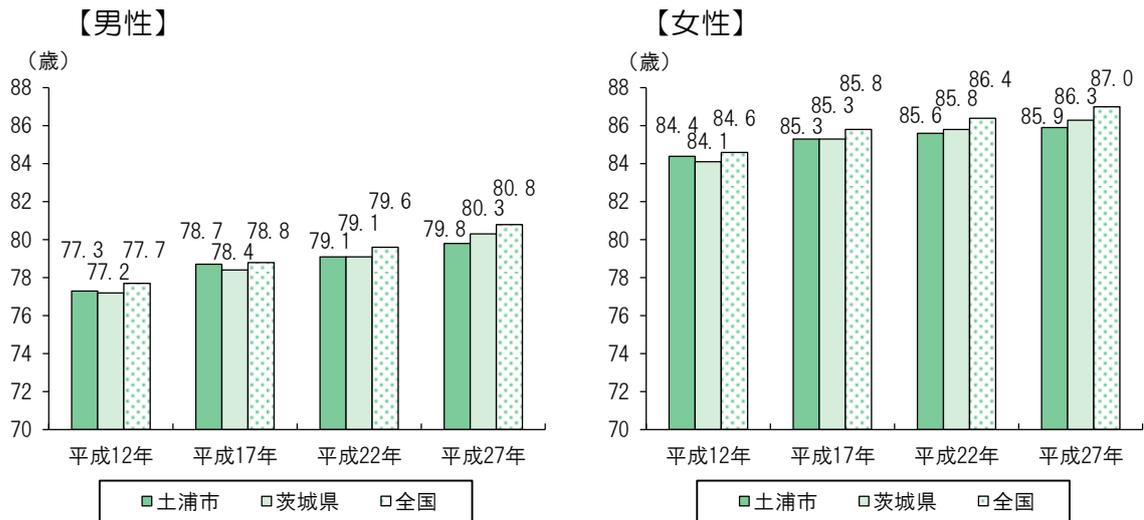


## 2 平均寿命・健康余命（寿命）

土浦市の平均寿命は平成27年の時点で男性が79.8歳、女性が85.9歳と県、全国と比べ、低くなっています。平成12年からの推移をみると、男女ともに平均寿命は伸び続けています。

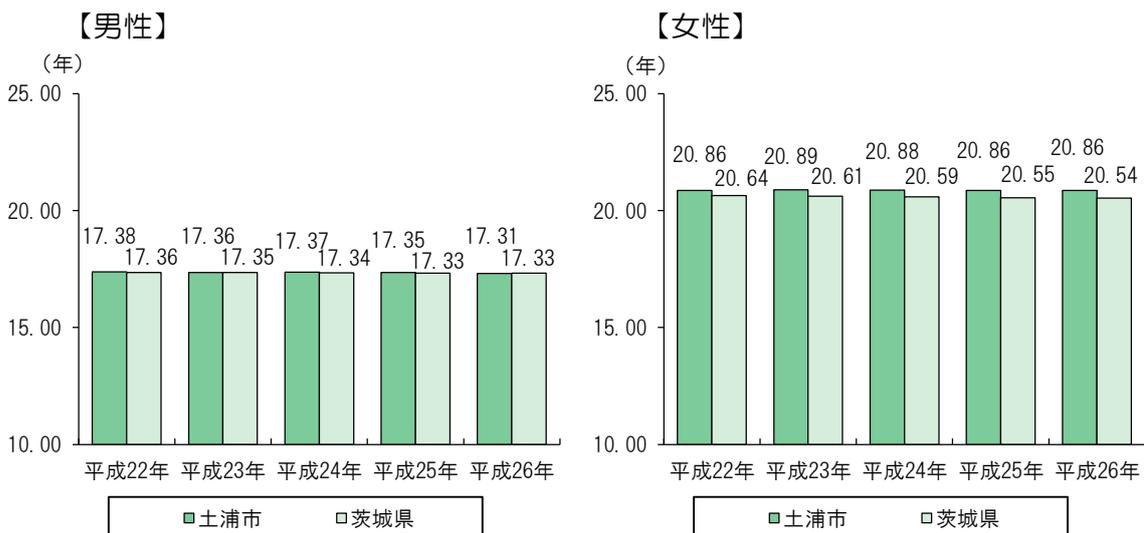
一方、健康余命については、平成22年からの推移をみると男女ともに横ばいの状況にあります。

図表 平均寿命



資料：国勢調査

図表 健康余命



資料：茨城県立健康プラザ

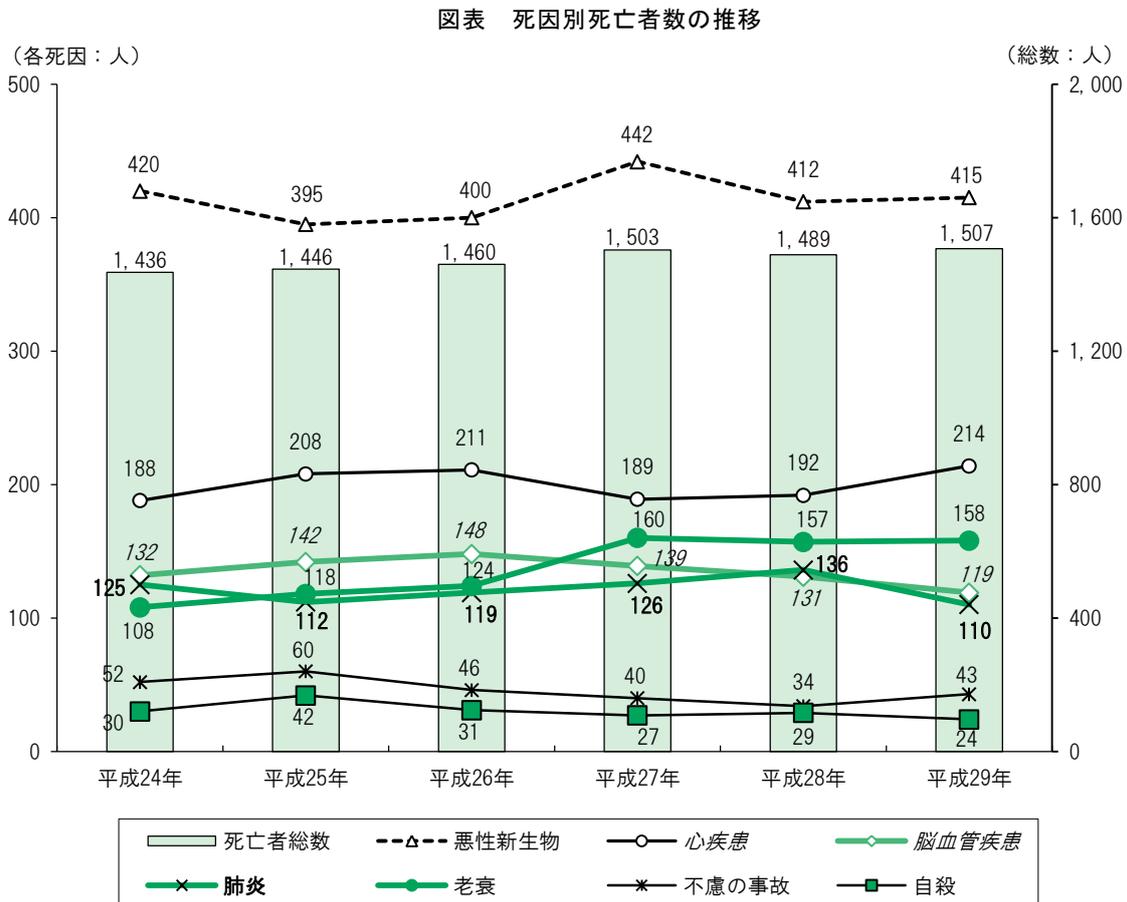
※健康余命とは・・・ある年齢の人があと何年健康で、普通の日常生活を送れるかを示したもの。  
 グラフは65～69歳の平均期間となっています。



### 3 疾病等の現状

#### (1) 死因別死亡者数の推移

死因としてここ数年最も多いのは「悪性新生物」で、400人台で推移しています。「心疾患」については横ばいで推移していますが、「老衰」が増加し、「脳血管疾患」は平成26年から減少が続いています。



図表 死因別死亡数(平成29年)

(死亡率：人口10万対)

順位	死因	死亡者数(人)	死亡割合(%)	死亡率(市)	死亡率(茨城県)	死亡率(全国)
1位	悪性新生物	415	27.5	303.1	309.8	299.5
2位	心疾患	214	14.2	156.3	171.2	164.3
3位	老衰	158	10.5	115.4	85.6	81.3
4位	脳血管疾患	119	7.9	86.9	105.6	88.2
5位	肺炎	110	7.3	80.3	95.1	77.7
6位	不慮の事故	43	2.9	31.4	32.7	32.4
7位	自殺	24	1.6	17.5	17.8	16.4
	その他	424	28.1			

資料：茨城県保健福祉統計年報



(2) 部位別がん死亡数

部位別がん死亡数でここ数年最も多いのは「気管、気管支及び肺」で、平成29年は88人で前年を上回っています。死亡率をみると「乳房」、「子宮」で県を上回っています。

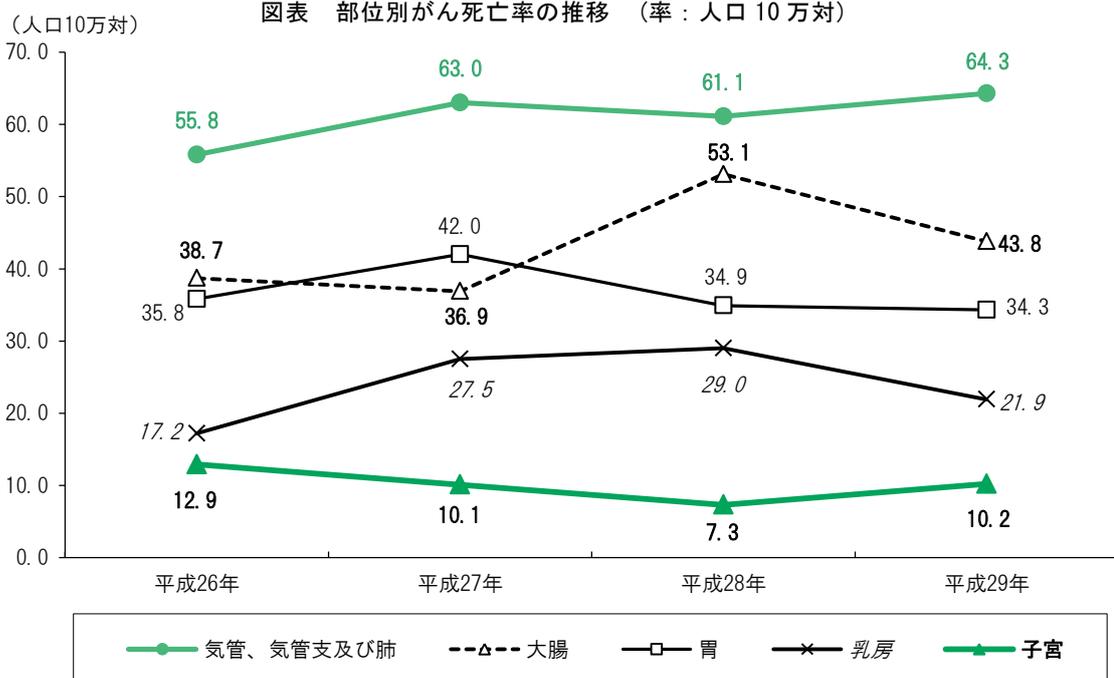
図表 部位別がん死亡数の推移

(率：人口10万対)

	平成26年			平成27年			平成28年			平成29年		
	市		県	市		県	市		県	市		県
	実数(人)	率	率									
気管、気管支及び肺	78	55.8	56.8	87	63.0	58.9	84	61.1	60.0	88	64.3	61.3
大腸	54	38.7	41.9	51	36.9	46.3	73	53.1	42.4	60	43.8	45.2
胃	50	35.8	45.5	58	42.0	41.1	48	34.9	41.5	47	34.3	41.3
すい臓	27	19.3	23.4	34	24.6	25.0	34	24.7	26.5	41	29.9	25.8
肝及び肝内胆管	31	22.2	22.7	31	22.4	21.3	30	21.8	22.0	25	18.3	18.8
胆のう及びその他の胆道	24	17.2	16.3	21	15.2	15.6	17	12.4	16.3	13	9.5	16.9
乳房	12	17.2	9.5	19	27.5	11.1	20	29.0	11.7	15	21.9	11.7
子宮	9	12.9	5.2	7	10.1	5.3	5	7.3	5.1	7	10.2	5.9
白血病	7	5.0	5.9	11	8.0	6.1	18	13.1	7.4	10	7.3	6.6
食道	16	11.5	9.3	11	8.0	8.9	7	5.1	8.2	12	8.8	8.9

資料：茨城県人口動態統計

図表 部位別がん死亡率の推移 (率：人口10万対)



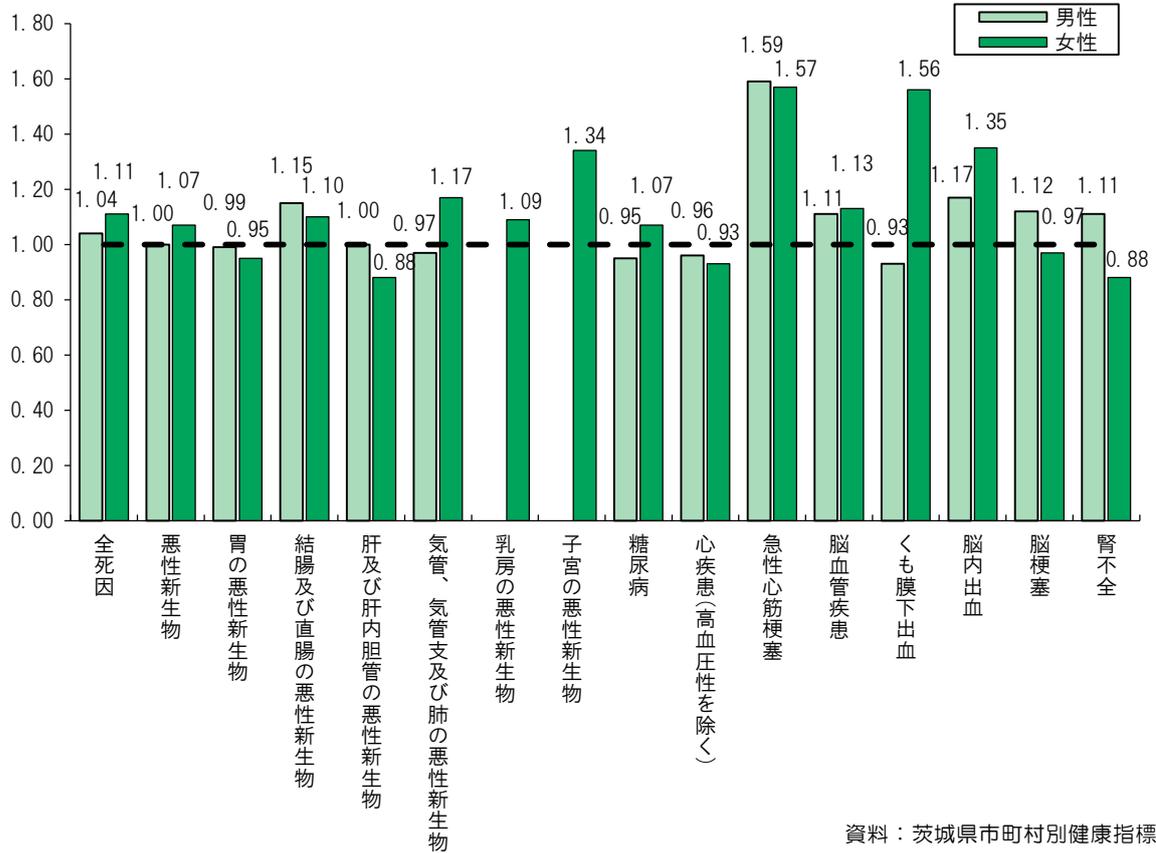
資料：茨城県人口動態統計

\*\*\*\*\*

(3) 標準化死亡比

標準化死亡比は、「急性心筋梗塞」、「脳内出血」、「脳血管疾患」などで男女とも全国を上回っています。「くも膜下出血」、「脳内出血」はいずれも男性より女性が高くなっています。「脳梗塞」、「腎不全」は女性より男性の方が高くなっています。

図表 土浦市標準化死亡比（平成24年～平成28年）



資料：茨城県市町村別健康指標

※標準化死亡比：高齢化率など年齢構成の違いの影響を除いて全国と比較したもので、全国を基準値1とし、1より大きければ全国より悪く、小さければ全国より良いことを意味します。

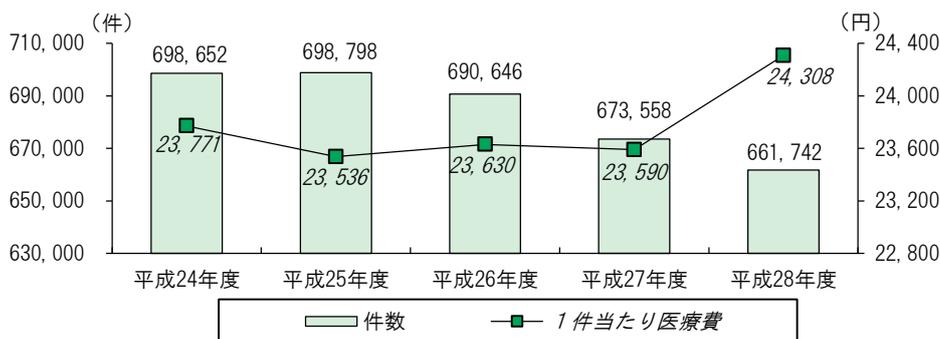


(4) 国民健康保険医療費の状況

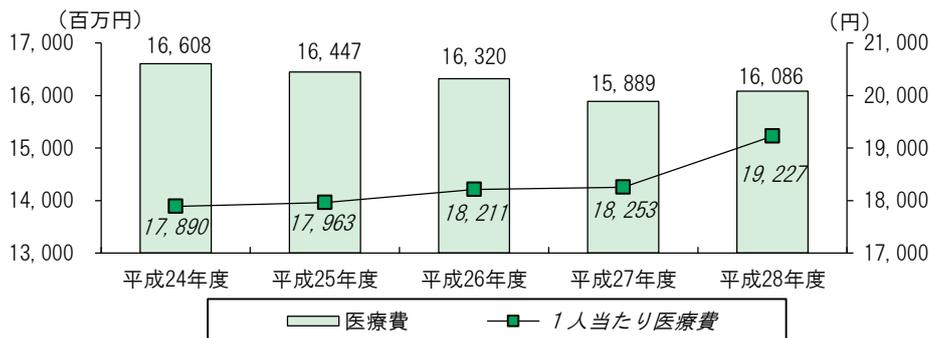
茨城県のレセプト件数は減少が続いており、平成28年度では前年度よりも1万件以上減っています。それに反して1件当たりの医療費は平成28年度で2万4千円台に増加しています。

疾病別にみると、医療費は「歯肉炎及び歯周疾患」、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」、「高血圧性疾患」が上位を占め、1件当たりでは「白血病」、「心臓の先天奇形」、「くも膜下出血」の順となっています。

図表 レセプト件数、1件当たり医療費の推移（年額：茨城県）



図表 医療費、1人当たり医療費の推移（年額：茨城県）



資料：茨城県国保医療費状況

図表 疾病別医療費（年額：茨城県）

医療費 単位：百万円				1件当たり医療費（入院）単位：千円		
	疾病	平成27年度	平成28年度	疾病	平成27年度	平成28年度
1位	歯肉炎及び歯周疾患	1,066	1,071	白血病	1,444	1,865
2位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,025	1,003	心臓の先天奇形	1,552	1,752
3位	高血圧疾患	1,018	957	くも膜下出血	1,114	1,422
4位	糖尿病	761	723	関節症	958	987
5位	腎不全	667	648	悪性リンパ腫	924	894

資料：茨城県国保医療費状況



## 4 前計画（平成27年3月策定）の数値目標の達成度

10の取組分野に設定した96の指標の目標値に対する平成30年度実施の「土浦市健康づくりアンケート」の調査結果の達成度で評価した結果は、以下のような状況です。

達成度の基準

- ・ 目標を達成したもの、上回ったもの . . . . . ◎
- ・ 目標には達していないが、改善がみられるもの（5ポイント以上の改善） . . . ○
- ・ 前回に比べほとんど差がみられないもの（±5ポイント未満） . . . . . △
- ・ 状況が悪化しているもの（5ポイント以上の悪化） . . . . . ×

なお、「健康つちうら21」策定時に実施した「土浦市健康づくりアンケート」（平成25年度実施）と設問や選択肢が異なる場合は（ ）付きとしています。また、数値が把握できない指標、数値の単純比較ができない指標については、評価不能（－）としています。

取組分野		達成度							計
		◎	○	△	(△)	×	(×)	－	
健康づくり	(1) 身体活動・運動		3	2		1			6
	(2) 休養・こころの健康		1	11					12
	(3) たばこ・アルコール	4		15		1			20
	(4) 歯と口腔の健康	1	3	4	1				9
	(5) 医療と健康			8	1				9
食育	(6) 食生活の基礎づくり	2		17		3	1		23
	(7) 食文化の継承・地産地消			1		1		1	3
	(8) 食の大切さを伝える活動		3	2			1		6
	(9) 食の安心・安全の確保	2		2		1			5
	(10) 食育を推進するための体制づくり					1		2	3
計		9	10	62	2	8	2	3	96
割合		9.4	10.4	64.6	2.1	8.3	2.1	3.1	100%

目標値の達成度としては、「目標を達成したもの」、「目標には達していないが改善がみられるもの」が合わせて19項目で19.8%となり、改善がみられたものは全体の約2割でした。

「前回と差が見られないもの」は64項目で66.7%、状況が悪化しているものは10項目で10.4%という結果でした。今回からの新たな目標値である3項目については「評価不能」としています。

全体の達成度として最も改善が見られた分野は(3) たばこ・アルコールで、悪化した分野は(6) 食生活の基礎づくりでした。

(1) 健康分野の達成度

① 身体活動・運動

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
週2日以上 運動している人の割合	成人男性	54.3%	60%	42.5%	-11.8 <sup>ポイ ント</sup>	×
	成人女性	41.7%	60%	38.5%	-3.2 <sup>ポイ ント</sup>	△
なるべく歩くように している人の割合	成人男性	22.1%	50%	34.3%	+12.2 <sup>ポイ ント</sup>	○
	成人女性	17.0%	50%	32.7%	+15.7 <sup>ポイ ント</sup>	○
「元気アップロード」を 利用している人の割合	成人	9.0%	50%	5.9%	-3.1 <sup>ポイ ント</sup>	△
ロコモティブシンドローム を認知している人の割合	成人	12.8%	80%	20.1%	+7.3 <sup>ポイ ント</sup>	○

「なるべく歩くようにしている人の割合」が男女それぞれ増加し、改善しました。また、「ロコモティブシンドロームを認知している人の割合」も改善が見られます。健康を意識し運動を心がけている人の割合が増えている一方で、「週2日以上運動している、運動習慣を持つ人の割合」が、成人男性で悪化しています。

② 休養・こころの健康

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
睡眠が足りている人の 割合	小学生	88.3%	90%	89.4%	+1.1 <sup>ポイ ント</sup>	△
	中学生	74.7%	90%	77.3%	+2.6 <sup>ポイ ント</sup>	△
	高校生	66.8%	90%	65.6%	-1.2 <sup>ポイ ント</sup>	△
	成人	79.8%	90%	79.4%	-0.4 <sup>ポイ ント</sup>	△
ストレスや悩みがある人 の割合	小学生	61.9%	50%以下	56.6%	-5.3 <sup>ポイ ント</sup>	○
	中学生	72.0%	50%以下	68.1%	-3.9 <sup>ポイ ント</sup>	△
	高校生	75.6%	50%以下	73.3%	-2.3 <sup>ポイ ント</sup>	△
	成人	78.9%	50%以下	80.1%	+1.2 <sup>ポイ ント</sup>	△
ストレスや悩みを持つ人 のうち、相談できる人が 誰もいない人の割合	小学生	17.2%	減少	13.0%	-4.2 <sup>ポイ ント</sup>	△
	中学生	12.5%	減少	12.6%	+0.1 <sup>ポイ ント</sup>	△
	高校生	13.2%	減少	9.5%	-3.7 <sup>ポイ ント</sup>	△
	成人	19.0%	減少	22.4%	+3.4 <sup>ポイ ント</sup>	△

「ストレスや悩みがある人の割合」で小学生に改善が見られます。しかし、その他の指標についてはベース値と大きな差はありません。

\*\*\*\*\*

③ たばこ・アルコール

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度	
喫煙者の割合	成人男性	24.7%	20%	24.8%	+0.1 <sup>ポイント</sup>	△	
	成人女性	10.2%	3%	8.3%	-1.9 <sup>ポイント</sup>	△	
たばこが及ぼす悪影響についての知識	肺がん	83.0%	100%	80.9%	-2.1 <sup>ポイント</sup>	△	
	心臓病	39.0%	100%	33.8%	-5.2 <sup>ポイント</sup>	×	
	脳卒中	37.9%	100%	37.8%	-0.1 <sup>ポイント</sup>	△	
	妊娠・出産に関する異常	44.3%	100%	44.0%	-0.3 <sup>ポイント</sup>	△	
	歯周疾患	23.3%	100%	25.5%	+2.2 <sup>ポイント</sup>	△	
受動喫煙の機会があった人の割合	職 場	成人	19.1%	減少	職場・学校 19.1%	0.0 <sup>ポイント</sup>	△
		飲食店	小学生	15.3%	減少	11.8%	-3.5 <sup>ポイント</sup>
	中学生		14.7%	減少	10.5%	-4.2 <sup>ポイント</sup>	△
	高校生		14.6%	減少	10.2%	-4.4 <sup>ポイント</sup>	△
	成人		20.5%	20%	20.0%	-0.5 <sup>ポイント</sup>	◎
	家 庭	小学生	37.3%	減少	29.6%	-7.7 <sup>ポイント</sup>	◎
		中学生	46.4%	減少	30.3%	-16.1 <sup>ポイント</sup>	◎
		高校生	34.6%	減少	26.0%	-8.6 <sup>ポイント</sup>	◎
		成人	14.2%	減少	11.8%	-2.4 <sup>ポイント</sup>	△
	週3日以上飲む人の割合	成人男性	43.8%	減少	41.4%	-2.4 <sup>ポイント</sup>	△
成人女性		13.9%	減少	14.2%	+0.3 <sup>ポイント</sup>	△	
1日3合以上飲む人の割合	成人男性	5.3%	4.0%	5.0%	-0.3 <sup>ポイント</sup>	△	
	成人女性	1.8%	0.3%	0.8%	-1.0 <sup>ポイント</sup>	△	

「喫煙者の割合」は男女ともに、前回調査と差が見られませんでした。  
 「たばこが及ぼす悪影響についての知識」では「心臓病」と答えた割合が低下しています。  
 「受動喫煙の機会があった人の割合」では、飲食店における成人の受動喫煙の割合が低下し、目標を達成しました。また、家庭における受動喫煙では、小学生・中学生・高校生それぞれに改善が見られ目標を達成しました。  
 アルコールの2つの指標については、男女ともに、前回調査と差が見られませんでした。



④ 歯と口腔の健康

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
むし歯のない3歳児の割合		80.6%	85%	87.5%	+6.9 <sup>ポイント</sup>	◎
むし歯のない児童生徒の割合	小学生	51.6%	増加	54.8%	+3.2 <sup>ポイント</sup>	△
	中学生	54.7%	増加	55.4%	+0.7 <sup>ポイント</sup>	△
定期的に歯の健診を受けている人の割合	小学生	16.3%	30%	15.8%	-0.5 <sup>ポイント</sup>	△
	中学生	9.1%	30%	12.6%	+3.5 <sup>ポイント</sup>	△
	高校生	8.8%	30%	17.2%	+8.4 <sup>ポイント</sup>	○
	成人	21.4%	30%	27.9%	+6.5 <sup>ポイント</sup>	○
自分の歯を持つ人の割合	64歳で 24本以上	65～69歳で 47.6%	64歳で 70%	65～69歳で 55.0%	+7.4 <sup>ポイント</sup>	○
	80歳で 20本以上	75歳以上で 34.1%	80歳で 40%	80歳以上で 36.6%	(+2.5 <sup>ポイント</sup> )	(△)

「むし歯のない3歳児の割合」が目標値を達成しました。また、「定期的に歯の健診を受けている人の割合」についても成人と高校生に改善が見られ、(64歳で自分の歯を24本以上保つ)6424についても改善しています。

⑤ 医療と健康

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度	
かかりつけ医を持つ人の割合	成人	65.0%	85%	62.9%	-2.1 <sup>ポイント</sup>	△	
かかりつけ歯科医を持つ人の割合	成人	51.2%	85%	49.4%	-1.8 <sup>ポイント</sup>	△	
かかりつけ薬剤師(薬局)を持つ人の割合	成人	17.1%	85%	14.2%	(-2.9 <sup>ポイント</sup> )	(△)	
各種検診の受診率の向上	胃がん検診	40～69歳	10.9%	50%	12.6%	+1.7 <sup>ポイント</sup>	△
	肺がん検診	40～69歳	5.3%	50%	6.1%	+0.8 <sup>ポイント</sup>	△
	大腸がん検診	40～69歳	14.7%	50%	10.3%	-4.4 <sup>ポイント</sup>	△
	前立腺がん検診	40～69歳 男性	10.1%	50%	10.3%	+0.2 <sup>ポイント</sup>	△
	子宮頸がん検診	20～69歳 女性	29.9%	50%	31.2%	+1.3 <sup>ポイント</sup>	△
	乳がん検診	40～69歳 女性	30.4%	50%	33.4%	+3.0 <sup>ポイント</sup>	△

医療と健康の分野ではいずれも目標値を達成できませんでした。「かかりつけ医、歯科医、薬剤師(薬局)を持つ人の割合」や「各種がん健診の受診率」について、前回調査と差が見られない状態です。



(2) 食育分野の達成度

① 食生活の基礎づくり

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度	
肥満傾向者の割合 (肥そう度20.1%以上の 人の割合)	小学生	11.7%	10%以下	10.5%	-1.2 <sup>ポイント</sup>	△	
	中学生	9.7%	8%以下	10.0%	+0.3 <sup>ポイント</sup>	△	
BMI ≥ 25の人の 割合	20歳代	男性	15.7%	14%以下	17.3%	+1.6 <sup>ポイント</sup>	△
		女性	13.8%	12%以下	10.4%	-3.4 <sup>ポイント</sup>	◎
	30歳代	男性	18.8%	17%以下	31.2%	+12.4 <sup>ポイント</sup>	×
		女性	12.0%	11%以下	16.1%	+4.1 <sup>ポイント</sup>	△
	40歳 以上	男性	25.8%	20%以下	27.8%	+2.0 <sup>ポイント</sup>	△
		女性	21.4%	17%以下	19.2%	-2.2 <sup>ポイント</sup>	△
BMI < 18.5の 人の割合	20歳代	女性	18.8%	17%以下	29.9%	+11.1 <sup>ポイント</sup>	×
	30歳代	女性	19.4%	17%以下	18.4%	-1.0 <sup>ポイント</sup>	△
毎日朝食を食べる子ども の割合	小学生	88.4%	100%	86.2%	-2.2 <sup>ポイント</sup>	△	
	中学生	80.0%	100%	83.6%	+3.6 <sup>ポイント</sup>	△	
	高校生	80.0%	100%	76.5%	-3.5 <sup>ポイント</sup>	△	
朝食欠食者の 割合(あまり 食べない)	20歳代	男性	13.7%	10%以下	13.5%	-0.2 <sup>ポイント</sup>	△
		女性	13.8%	10%以下	13.4%	-0.4 <sup>ポイント</sup>	△
	30歳代	男性	17.4%	10%以下	14.3%	-3.1 <sup>ポイント</sup>	△
		女性	9.3%	10%以下	6.9%	-2.4 <sup>ポイント</sup>	◎
野菜を1日2回以上摂取する 人の割合	成人	58.8%	増加	56.2%	-2.6 <sup>ポイント</sup>	△	
栄養バランス等に配慮した 朝食をとっている人の割合	成人	50.3%	60%以上	44.6%	-5.7 <sup>ポイント</sup>	×	
栄養バランス等に配慮した 昼食をとっている人の割合	成人	45.1%	60%以上	42.1%	-3.0 <sup>ポイント</sup>	△	
栄養バランス等に配慮した 夕食をとっている人の割合	成人	68.5%	80%以上	65.6%	-2.9 <sup>ポイント</sup>	△	
メタボリックシンドローム(内 臓脂肪症候群)の予防や改善 のための適切な食事、運動等 を継続的に実践している国民 の割合	成人	69.3%	80%以上	65.1%	-4.2 <sup>ポイント</sup>	△	
朝食又は夕食を家族と一 緒に食べる「共食」の回数 の増加	成人	66.4%	70%以上	51.1%	(-15.3 <sup>ポイント</sup> )	(×)	

## 第1編 総論

\*\*\*\*\*

BMI 25 以上の「20 歳代女性の肥満の割合」と「30 歳代女性の朝食欠食者の割合」は減少し、目標を達成しています。一方、BMI 25 以上の「30 歳代男性の肥満の割合」と、BMI 18.5 以下の「20 歳代女性のやせの割合」は増加し、悪化しています。若い年代の女性は、やせの傾向にあり、壮年期の男性は肥満の傾向にあるという結果でした。

また、「栄養バランスを配慮した朝食をとっている人の割合」と、「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数」も減少し、悪化しています。

### ② 食文化の継承・地産池消

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
学校給食における地場産物を使用する割合の増加	成人	32.0%	33%	32.0%	0.0 <sup>ポイント</sup>	△
「わがまちの食事バランスガイド」の認知度	成人	－	30%以上	3.2%	－	－
地域の産物を意識して買うようにしている人の割合	成人	20.7%	50%以上	15.2%	-5.5 <sup>ポイント</sup>	×

「学校給食における地場産物を使用する割合」は前回調査と差が見られない状態です。

「わがまちの食事バランスガイド（土浦市版）」については、前計画策定後に作成し全戸配布した物のため、ベース値が無く、評価不能としています。

「地域の産物を意識して買うようにしている人の割合」は減少し、悪化しています。

### ③ 食の大切さを伝える活動

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
残さないように気をつけている子どもの割合	小学生	56.6%	70%以上	61.4%	+4.8 <sup>ポイント</sup>	△
	中学生	56.2%	70%以上	64.7%	+8.5 <sup>ポイント</sup>	○
農林漁業体験をした人の割合	成人	60.0%	70%以上	25.5%	(-34.5 <sup>ポイント</sup> )	(×)
よく噛んで味わって食べるなどの食方に関心のある人の割合	成人	88.5%	90%以上	89.0%	+0.5 <sup>ポイント</sup>	△
1人1日当たりのごみの量		797g/人・日	683g/人・日	717g/人・日	-80 <sup>グラム</sup>	○
リサイクル率		12.0%	24%	21.6%	+9.6 <sup>ポイント</sup>	○

「残さないように気をつけているこどもの割合」が増加し、中学生で改善がみられました。

また、「1人1日当たりのごみの量」と「リサイクル率」についても改善しています。

「農林漁業体験をした人の割合」については、かなり減少していますが、これは前回調査と設問の表現が違ったことによる影響が考えられます。

\*\*\*\*\*

## ④ 食の安心・安全の確保

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
栄養成分表示や産地表示 を参考にする人の 割合	小学生	12.2%	増加	9.4%	-2.8 <sup>ポイント</sup>	△
	中学生	3.4%	増加	8.8%	+5.4 <sup>ポイント</sup>	◎
	高校生	4.4%	増加	9.5%	+5.1 <sup>ポイント</sup>	◎
	成人	34.3%	60%以上	31.6%	-2.7 <sup>ポイント</sup>	△
食品の安全性に関する基礎 的な知識を持っている人の 割合	成人	60.5%	90%以上	54.4%	-6.1 <sup>ポイント</sup>	×

「栄養成分表示や産地表示を参考にする人の割合」は増加し、中学生と高校生で目標を達成しました。一方、「食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている人の割合」は減少し、悪化しています。

## ⑤ 食育を推進するための体制づくり

目標を表す指標		ベース値 平成 25 年 (2013)	目標値 平成 31 年 (2019)	現状値 平成 30 年 (2018)	現状値 － ベース値	達成度
食育に関心のある人の 割合	成人	79.2%	90%以上	74.1%	-5.1 <sup>ポイント</sup>	×
「食事バランスガイド」 等を活用する人の割合	成人	(参考)用語 の認知度 26.2%	50%以上	1.9%		－
「食生活改善推進員」を 知っている人の割合	成人	－	50%以上	24.6%		－

「食育に関心のある人の割合」が減少し、悪化しています。

「食事バランスガイド等を活用する人」及び「食生活改善推進員を知っている人」については、今回新しく加えた設問ですので、ベース値に対する達成度としては評価不能としています。

